

ispace、日欧政府の JAXA-ESA 将来大型協力に関する共同声明への署名を歓迎

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）は本日、宇宙航空研究開発機構（以下 JAXA）と欧州宇宙機関（以下 ESA）が発表した、月探査分野での協力を含む将来大型協力に関する共同声明への署名を受けて、下記の通り歓迎のコメントを発表しました。

■ 株式会社 ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田武史のコメント

「日本および欧州における月面開発を牽引するグローバル企業として、このたびの両政府機関の将来大型協力に関する共同声明を心から歓迎します。

私たちは、両機関と共に重要な宇宙探査活動に取り組む機会を得ることが出来ることを光栄に思うと共に、新たな科学的発見及び月面での有人探査に貢献することを目的とした商業機会があることを嬉しく思います。

ispace は両機関が推進する月探査分野での取り組みに関し、2027年の打ち上げに向けて現在日本主導で開発を進めるシリーズ3ランダーを活用し、日欧政府機関の協力関係強化に貢献出来ることを期待します。」

■ ispace EUROPE S.A. CEO Julien-Alexandre Lamamy のコメント

「JAXA との月資源開発に関する構想検討や、欧州法人である ispace EUROPE S.A. と ESA との宇宙資源探査と活用を目指す宇宙プログラム（LuxIMPULSE）を通じてルクセンブルク宇宙機関の共同出資により実施した、欧州初の月面探査用マイクロローバー開発など、ispace はこれまで長きに亘り両機関と継続的に月輸送および探査のための開発を官民一体となって協議を継続してまいりました。

現在、打ち上げを最速 2025 年 1 月に控える民間月面探査プログラム『HAKUTO-R』ミッション 2 の RESILIENCE ランダーは日本で開発され、ispace EUROPE が開発した TENACIOUS ローターが搭載されています。これは宇宙探査における欧州と日本の協力関係が持つ変革の可能性を象徴するものです。

私たちは、革新的な協力関係を通じて月探査を推進する ESA および JAXA の取り組みを心から歓迎します。そして、専門知識を集結させることで、官民の垣根を超える新しい相乗効果を生み出し、宇宙探査におけるイノベーションと成長を推進して行きます。」

将来大型協力に関する共同声明についてはこちら（JAXA）

https://www.jaxa.jp/press/2024/11/20241120-1_j.html

ispace は、日・米・欧の 3 法人でそれぞれの地域の文化や多様性を活かしながら、1 つの統合的なグローバル企業として宇宙開発を進めてまいりました。最速 2024 年 12 月に日本法人が主導するミッション 2、続いて 2026 年には米国法人が主導するミッション 3 を順次実行していく計画です。また、2027 年には、現在日本で開発中のシリーズ 3 ランダー（仮称）を用いたミッション 6 を予定しています。世界中の政府、企業、教育機関からの高まる需要に応えるため、ispace はミッション 3 およびそれ以降のミッションのペイロードサービス契約とデータサービスを提供してまいります。

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 の打ち上げは最速 2025 年 1 月ⁱに、ミッション 3 は 2026 年ⁱⁱ、ミッション 6 は 2027 年ⁱⁱⁱに打ち上げを行う予定。

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 へフィードバックされる予定。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

ⁱ 2024 年 11 月時点の想定

ⁱⁱ 2024 年 11 月時点の想定

ⁱⁱⁱ 2024 年 11 月時点の想定